

10. 校庭の植物

樹木類・つる性



クロマツ（オマツ）

三浦市ノ木

昭和50年6月6日制

1) 授業の野外観察で、樹木を知ろう。

さあ、いくつの樹木を確認することができますか？

樹木には冬になると落葉する木(落葉樹)と冬でも落葉しない(緑の葉っぱをつけている)木(常緑樹)があります。草本類と同じように説明文(植物名)の右端に□があります(P91～P117)。確認のできたものには□に○印をつけましょう。

また、P118～P121にある三浦市立中学校校内植物調査表の中にもチェックをしましょう。

校内植物調査結果表の中で、○のついていないものは、君達の学校では、まだ確認できていない樹木です。見つけることができたなら、先生にも報告をして、校内にある植物として認定してもらいましょう。

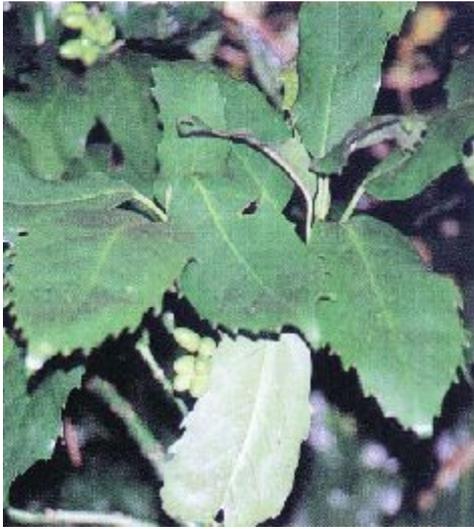
さらにこの副読本「校庭の植物」に載っていない樹木を見つけたら、図書室に行って植物図鑑で調べ、先生に報告しましょう。

これで君も植物博士になれるかもしれません。

この授業を終えたとき、樹木と友達になれていればしめたものです。

野外観察では

樹皮の様子、葉の形等を参考にして樹木を観察し確認をしよう。



201 アオキ □

ミズキ科

花時期 3～4月

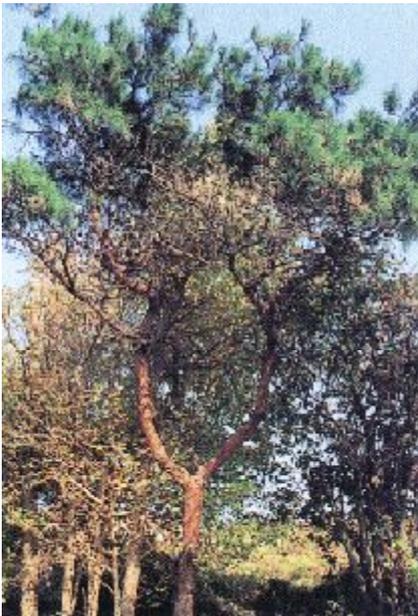
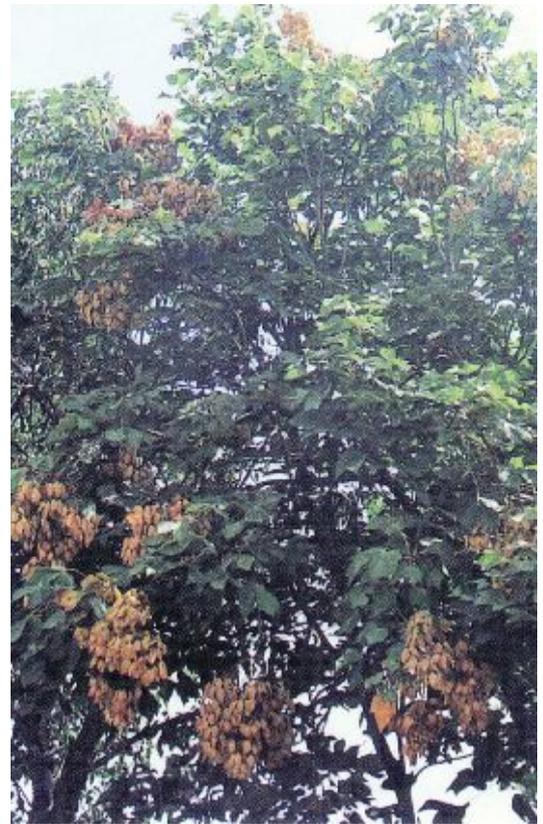
林の中に生える常緑低木。高さ2mほどになり枝は太く緑色。葉は長い楕円形で厚みがあり、濃い緑色で光沢がある。へりには粗い鋸歯があり、対生する。雌雄異株で雌株につく実は美しい赤色で、冬の間じゅうついている。

202 アオギリ □

アオギリ科

花時期 6～7月

木で、花は単性で花弁がない。葉は互生、単葉または掌状に複生する。袋果は成熟前に裂開する。葉の裏面に星状毛を密生している物をアオギリ、毛のない物をケナイアオギリという。幹の色が緑色でキリのような大きな葉を持つ。木の皮は強くひもとして用いた。実の付いた船型のサヤも特徴的。



203 アカマツ(メマツ) □

マツ科

花時期 4月

樹は名のとおり赤褐色で、老木になると樹皮が亀甲状に裂ける。山野に普通に見られるが、乾燥に強く、尾根筋にもよく生える。建材やパルプ材としてはクロマツより材質がよく、松脂からはテレピン油やワニスがつくられる。マツタケが生えるのはアカマツの林。



204 アカメガシワ



トウダイグサ科

花時期 7月

山野に自生する。新芽が赤いことが名の由来。葉と種子は染料、樹皮は健胃剤となる。葉は倒卵状円形で先がとがる。花は枝先の円錐花序につくが雌花には花弁がなく、赤い花柱が見える。雄花は淡黄色。実にはやわらかいとげが生えており、熟すと裂ける。

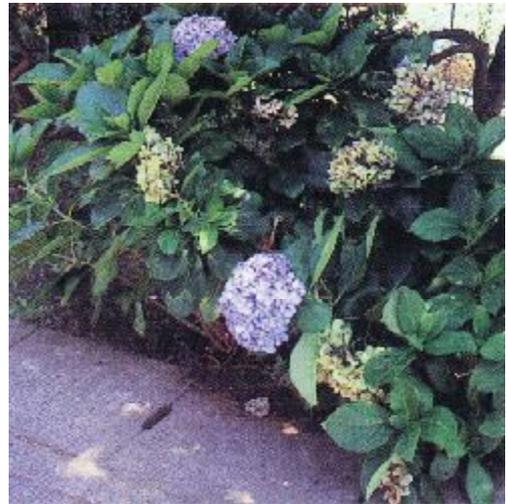
205 アジサイ



ユキノシタ科

花時期 6～7月

日本現存の園芸植物。暖地に生えるガクアジサイが改良され、すべて装飾花になったもの。材はかたく、以前は木クギなどに用いられた。花色が日を追って変わるので、七変化の別名がある。花弁のように見えるのはがくで、実際の花弁は小さく、結実しない。



206 アズマネザサ



イネ科

東日本の平地や丘陵地に最も普通に生育している小～中形のササ。草原や明るい林内にしばしば大群生する。特に栽培することはないが庭の周辺や空き地にも多い。竹の皮は残り、無毛。枝は節から1～数本出て、枝の先に数個の葉がつく。葉鞘の肩の切り口はほぼ水平で白い毛があるが、葉は無毛。

(近似種：メダケ、ヤダケ)



208 アツバキミガヨラン □

ユリ科

花時期 10～11月

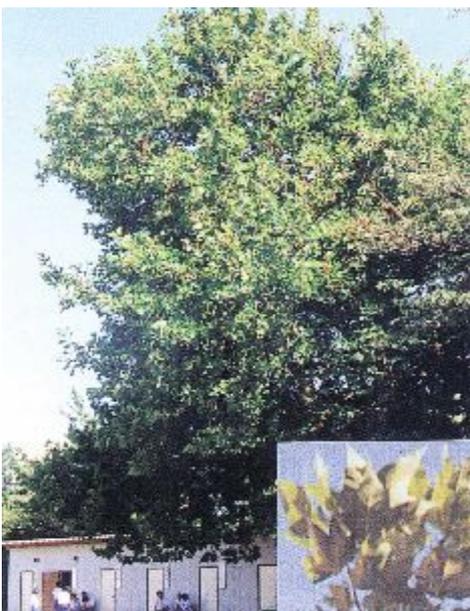
名前は「厚葉君が代蘭」。幹はまばらに枝分かれして、高さ3mになり、先端に繊維質で強靱な葉を四方につける。葉の先は針状で、触ると痛い。枝の先に高さ1mほどの花序を立て、下向きの花をたくさんつける。花は径5cmで、花びら6枚、花には異臭がある。

209 アベリア □

スイカズラ科

花時期 4～5月

別名：ハナツクバネウツギ。山地の林のへりなどに生える落葉低木。枝は細く、葉は対生する。枝の先に花を2つ、対生につける。花は筒形で先へ行くほど太くなり、先端は5裂する。がく片は果実になってからも上に残り、羽子板でつく追いバネのような形になる。



210 アメリカスズカケノキ □

スズカケノキ科

花時期 4月

別名：プラタナス。街路樹や公園樹として親しまれている。大気汚染に強く、生長が速い。樹皮は暗褐色で、縦に割れる。葉は大形で、幅8～22cm、長さ7～20cm、掌状に浅く3～5裂する。雌雄同株。雌花は赤く、雄花は黄緑色。秋、直径3cmほどの球形の実が、長い柄に1個ずつつく。



211 イチョウ



イチョウ科

花時期 4月

中国、韓国、日本などで栽培されているが、原産地の中国ですら自生種は知られていない。日本への渡来年代も不明。約2億年前に全盛を迎えた種類で、世界各地から化石が発見されているが、現存するのは1種のみ。雌雄異株で、雌株につく実が銀杏である。老木になると気根状の乳が垂れ下がる。

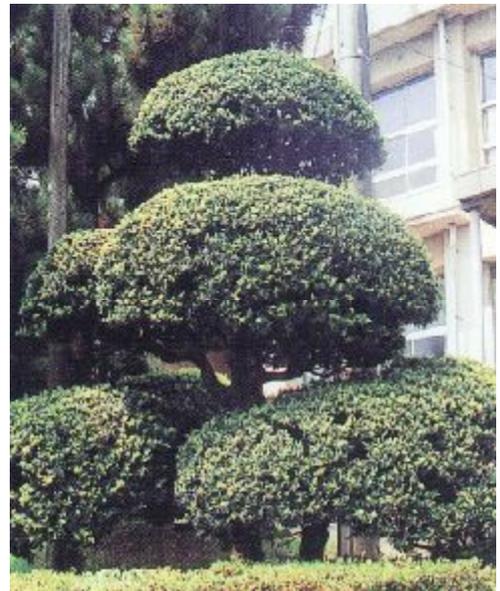
212 イヌツゲ



モチノキ科

花時期 6～7月

山地に生える。高さはふつう2～3mだが、15mに達することもある。よく分枝して刈り込みに強いので、生け垣や庭木に向いている。材は細工物などにも使われる。光沢のある楕円形の葉をつけ、葉の腋に白い花を咲かせる。雌雄異株。秋には実が黒く熟す。



213 イヌビロ



クワ科

花時期 4～7月

葉身は倒卵形～長楕円形で先はとがる。全縁で長さ8～17cm、幅4～10cmで、表緑色・裏淡緑色。葉柄は長さ1～4cm。花序は球形で葉腋に1個つく。花柄の長さ1～2cm。雄花序は赤くなり、雌花序は紫黒色に熟す。



214 イヌマキ (マキ) □

マキ科

花時期 5～6月

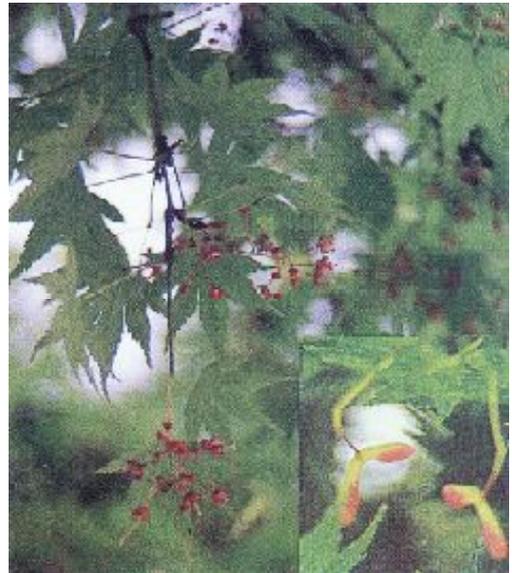
山地に自生する。庭木や生け垣としても利用するが、材の心部が腐りにくいので、そろばん玉などに用いられる。葉は細長い。雌雄異株。実は緑色の球形で9～10月に成熟し、赤紫色の花托の上につく。花托は甘味があり、食用となるが、種子は有毒なので注意する。

216 イロハカエデ □

カエデ科

花時期 4～5月

別名タカオカエデ。雌雄同株の落葉高木。最も普通に見られるカエデで、大木となり、庭園で栽植され、園芸品種も多い。枝や葉はほぼ無毛。4月頃開花し、新枝の先に暗紅色の花を散房状態につける。



218 エノキ □

ニレ科

山地に自生する。神社や公園に植えられているが、昔は一里塚の目印によく植えられた。樹皮は厚くざらざらしている。葉は楕円形で、上半分に鋭い鋸歯がある。花は淡黄褐色実は10月ごろ黄葉した葉の陰につき、甘くておいしい。国蝶オオムラサキの幼虫の食樹として知られている。



219 オオシマザクラ □

バラ科

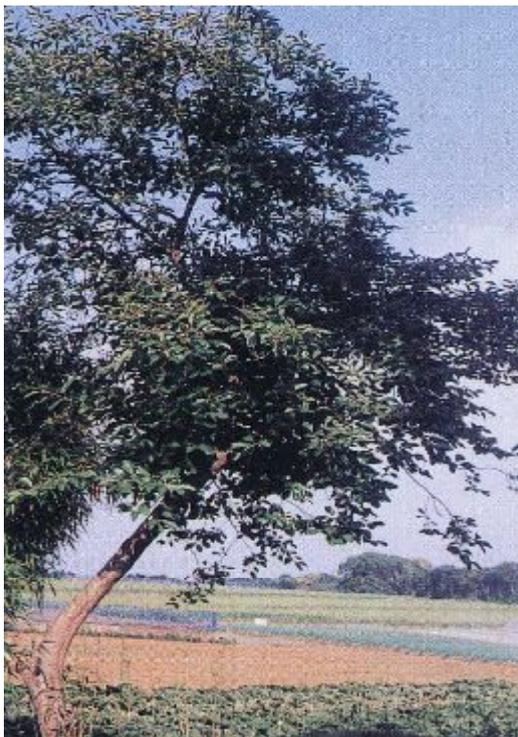
花時期 3月～4月

古くから栽培している房総半島や伊豆半島では野生化している。潮風に強いので暴風樹としても利用される。樹皮は暗灰色。葉は倒卵状楕円形で鋸歯があり、先が長くとがる。花は白色で芳香がある。実は熟すと黒紫色になる。香りのよい葉は、塩漬けにして桜餅を包むのに使われる。

221 カイツカイブキ □

ヒノキ科

海岸近くに自生するイブキの園芸種。大気汚染に強く、公園樹や庭木、生け垣に利用される。日向を好み、暖地でよく育つ。側枝がねじれ、炎のような独特の樹形になるが、刈り込まれていることが多い。葉は鱗片状で密に茂り、冬も濃い緑で美しい。雌雄異株。



222 カキ □

カキノキ科

花時期 6月

山地に自生するが、栽培の歴史は古く、鎌倉時代にはすでに甘柿がつくられていたらしい。実は生食か、干し柿にする。未熟な実からつくる柿渋は防腐効果がある。葉は卵円形で先端はとがる。ビタミンCが豊富なので、若い葉を乾燥させてお茶にする。雌雄異株。



224 カジイチゴ



バラ科

花時期 4～5月

海沿いに自生し、庭木として利用される。春の若葉は生け花の花材となる。よく枝分かれし、高さ2m以上になる。茎の下部にはとげがある。葉は長さ10～20cmで、掌状に3～7裂して鋸歯がある。この葉がカジノキに似るため、カジイチゴの名がある。栗実は直径2cmほどで、黄色く熟し、食用になる。

225 カナリーヤシ



ヤシ科

花時期 夏

常緑高木。カナリア諸島原産でフェニックスと呼ばれるものの多くがこの種である。太い幹が直立し、枝分かれしない。高さ7～10m。葉は大形の羽状複葉で幹の上部に密集してつく。雌雄異株で雄花・雌花共に黄色。果実は2～3cmの長さの楕円形で赤みをおびた黄色になる。

(近似種：シュロ)



226 カラスザンショウ



ミカン科

花時期 7～8月

樹皮は灰色で縦に皮目のすじがある落葉高木。葉は長さ30～80cm。5～15cmの小葉が13～23個つく。小葉は葉面全体に油点があり、裏面は粉白色である。円錐花序は頂生、長さ約20cm。径4mmほどの果実は表面にしわが



228 キョウチクトウ □

キョウチクトウ科

花時期 6～9月

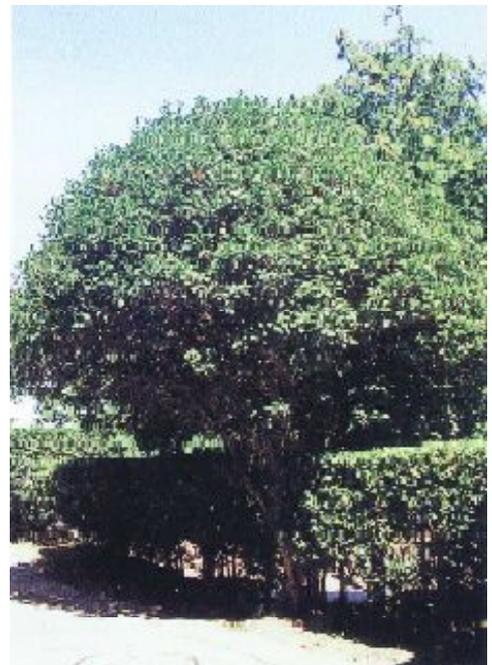
江戸時代中期に渡来した。大気汚染に強いので、工場地帯や市街地の緑化に用いられる。全体有毒だが、葉は強心剤や利尿剤になる。細長く光沢のある葉は厚く、3枚が輪生する。花は淡紅色が普通だが、白色、紅色もあり、一重と八重がある。数少ない夏の花木で、園芸種も多い。実は細長く、袋状。

230 キンモクセイ □

モクセイ科

花時期 10月

ギンモクセイの変種。香りがよだけでなく、大気汚染や潮風に強く、刈り込みに耐え、日陰でもよく育つので、古くから栽培されている。樹皮は淡灰褐色。葉は広披針形で、葉の腋に小さな花を咲かせる。雌雄異株だが、日本には雄株しかないので結実しない。

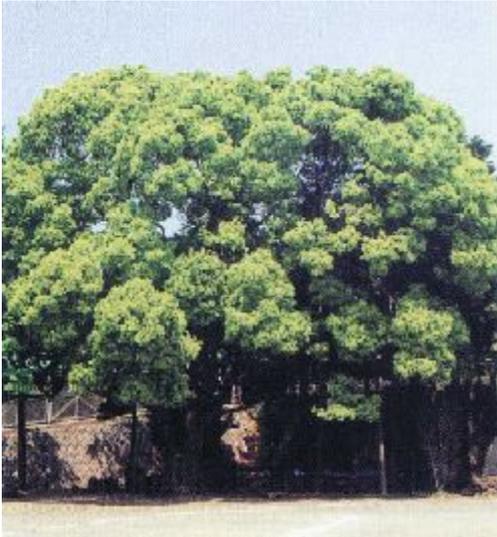


232 クサギ □

クマツヅラ科

花時期 8～9月

山野の日当たりのよい場所に生える。枝葉に悪臭があるが、若葉は食べられる。根は薬用、実は染料になる。葉は三角状心形で鋸歯がある。芳香のある花は白く、葉のつけ根から出る集散花序につく。実は藍色に熟し、赤色のがく片とのコントラストが美しい。



233 クスノキ



クスノキ科

花時期 5～6月

地に自生する。街路樹や公園樹としての植栽がさかん。かつては天然樟腦の原料として使われていた。大木になるものが多く、天然記念物に指定されているものもある。葉は光沢のある卵形。葉のつけ根から花序を出し、黄白色の花をつける。実は黒く熟す。

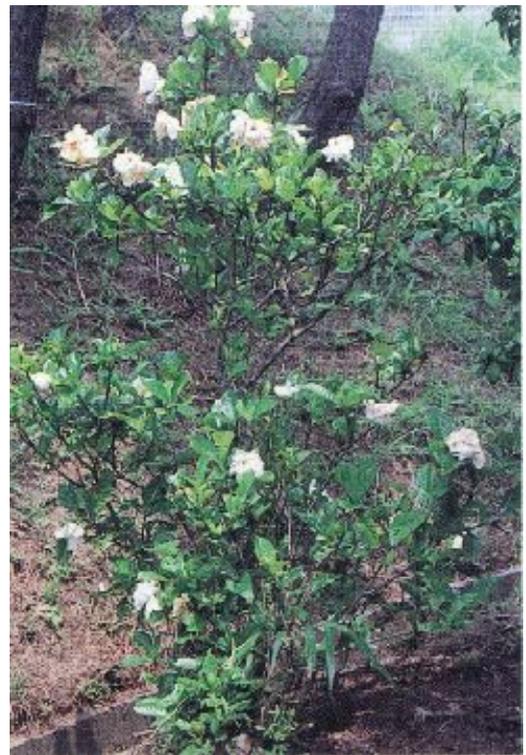
234 クチナシ



アカネ科

花時期 6～7月

暖地に生える。普通は漢字で梔子と書くが、実が熟しても裂開しないことから“口無し”が正しいという説もある。冬、黄赤色に熟す実からとれる染料は無害の天然色素として、きんとんなどの色づけに使う。芳香のある花は白く、一重と八重がある。



236 クロマツ(オマツ)



マツ科

花時期 4～5月

樹皮はやや赤みを帯びた灰黒色で、厚い鱗片状にはげる。冬芽の鱗片は灰白色で普通外反しない。葉は剛直で、長さはアカマツよりも長い。三崎中では校歌に取り入れられている代表的な樹木である。針状の2枚の葉が特徴的。庭園や一般家庭でもよく植えられている。



237 ケヤキ



ニレ科

花時期 4～5月

山野に自生する。公園樹、街路樹として用いられるほかに、防火・防風の目的で人家のまわりに植えられる。とくに関東地方での利用が多い。材は狂いが少なく、湿気に強いので幅広い用途がある。樹皮は老木になると鱗片状にはがれる。葉は卵形。花は薄い黄緑色。

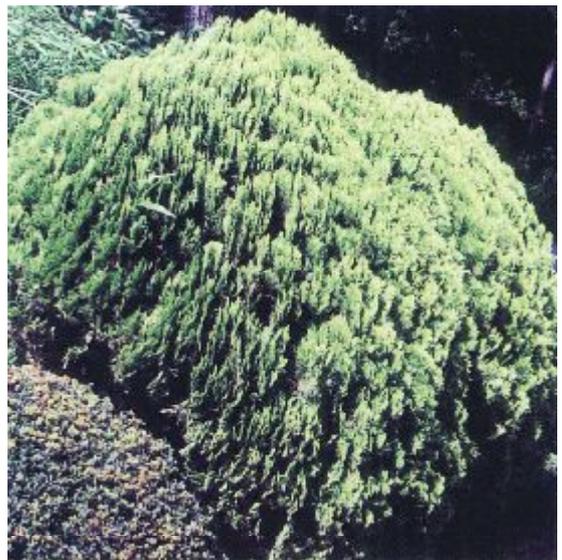
241 コノテガシワ



ヒノキ科

花時期 3～4月

江戸時代中期に渡来した。中国では寺院や墓地に植えられている。庭木や生け垣にするときは、日当たりのよいところでないと下枝が枯れ上がってしまう。老木になると樹皮は繊維状に裂ける。葉は扁平で、手のひらを立てたように直立するため、葉の表裏が不明瞭。球果の先は角状にとがる。



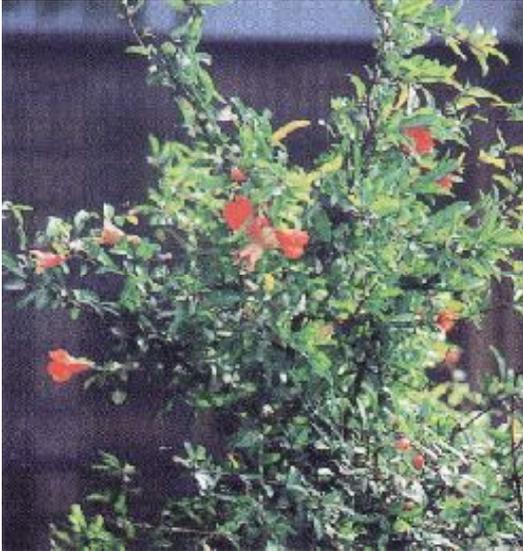
242 コムラサキ



クマツヅラ科

花時期 6～7月

山麓や原野の湿地に生える。紫色の実が美しく、和名は平安時代の紫式部にちなむ。庭木としての利用も多い。枝は紫褐色で細く、葉は倒卵状楕円形で上半分に鋸歯がある。葉の付け根から散形花序を出し、薄い紫色の花を咲かせる。実す。



243 ザクロ



ザクロ科

花時期 6月

平安時代に渡来し、よく庭木にされている。実は生食できる。改心した鬼子母神は、子供の代わりにこの実を食べるようになったという。短枝の先はとげ状になる。葉は長楕円形。花は朱赤色で、花弁は薄く、しわっぽい。厚い果実は熟すと不規則に割れる。八重咲きの品種は結実しない。

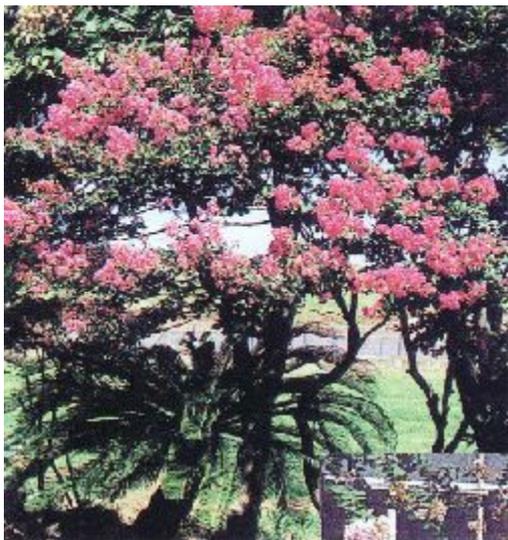
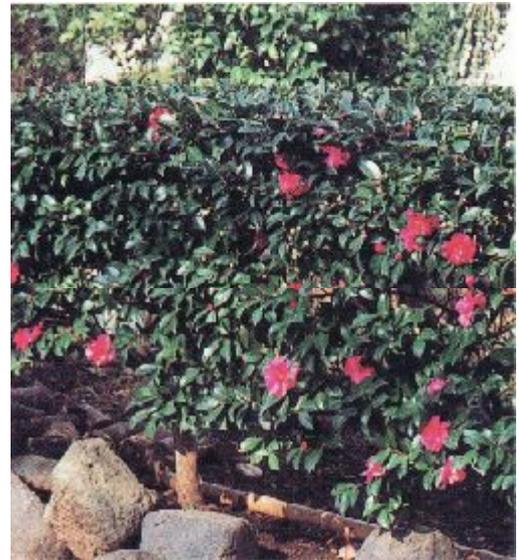
244 サザンカ



ツバキ科

花時期 10～12月

暖地の林に生える常緑低木。ツバキ属の一種。秋咲きであり、花弁が1枚ずつ分かれる離弁花、雄しべが合体していないなどで、ツバキとは区別しやすい。多くの園芸品種が多い。名は「山茶花」(さんさか)がなまって「サザンカ」となった。(近似種：チャノキ、ツバキ)



246 サルスベリ



ミソハギ科

花時期 5～8月

通常は庭や公園などに栽植している落葉高木で高さ5mにもなる。幹は滑らかで猿でも滑ってしまうほどだということから命名。

葉は楕円形で、若い枝は四角形。枝の先に円錐状の花序が出て6弁の花を開く。花色は、紅色、ピンクなどで長時間咲き続ける。

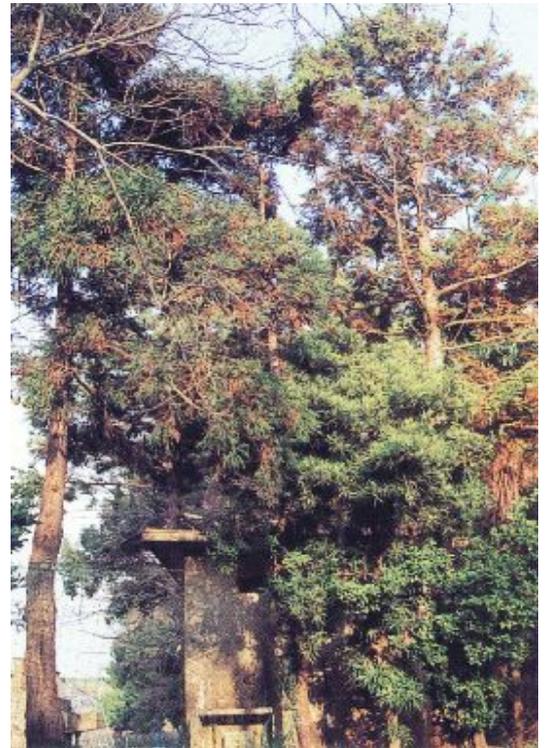


247 サンゴジュ □

スイカズラ科

花時期 6～7月

暖地の林に生えるが、よく植えられている常緑低木、高さ 5m 近くになる。幹は太く、黒々として光沢がある。濃い緑色の葉と共に、よい特徴となっている。今年伸びた枝の先に円錐状の花序をつけ、小さな白花を開く。果実は径 5mm ほどの長円形で赤から黒に変わる。



256 スギ □

スギ科

日本特産種で各地に自生している。古くから植林された樹種で、材の用途は多岐にわたり、人口造林面積が量も広い。太平洋側に産するものをオモテスギ日本海側のものをウラスギと呼んで区別することがある。樹皮は赤褐色で縦に長く裂ける。葉は鎌状の針形でらせんを描いてつく。3～4月に花が咲き、大量の花粉をまき散らす。



257 スダジイ □

ブナ科

花時期 5～6月

暖地の山地に生える。関東地方では人気のある庭木。シイタケ栽培の原木に利用される。樹冠は丸い。樹皮は黒褐色で縦に裂け、葉は長さ 6～15cm で互生する。雌雄同株。花に甘い香りがある。実(どんぐり)は生食でき、翌年の秋に熟すと殻が3裂する。



258 ソテツ



ソテツ科

花時期 6～8月

九州からさらに南の地方には自生しているが、ふつう植えられている常緑低木である。雌雄異株で、幹は高さ1～4m 雄花の穂は松かさ形で雌花の穂は重なり合い茎の先につく。実は有毒だが、果実や幹からデンプンを採り、食用とする。

259 ソメイヨシノ

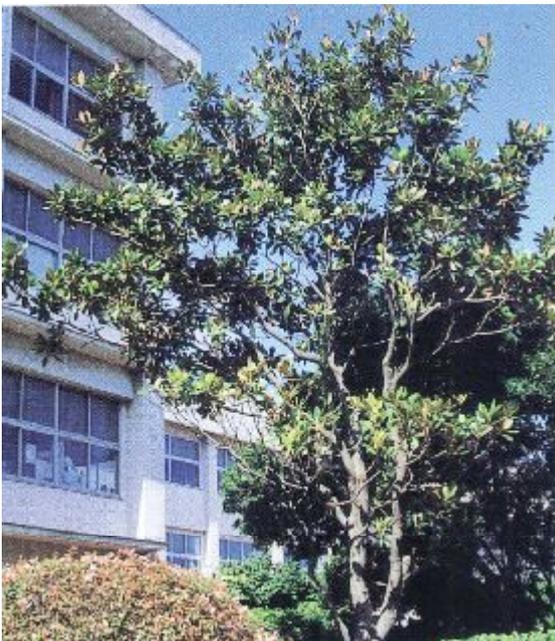
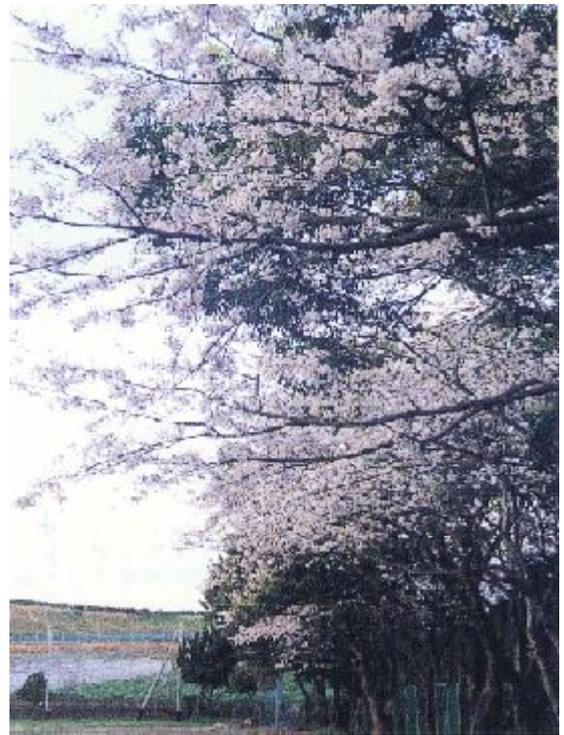


バラ科

花時期 3～4月

サクラの代表品種。江戸時代にエドヒガンとオオシマザクラの雑種として売り出されたもの。幹の高さは約5mの落葉小高木で花がすんでから葉が伸びる。がくはつつ形で下部はややふくらむ。がくや花の柄に毛が多い。

(近似種：オオシマザクラ、ヤマザクラ)



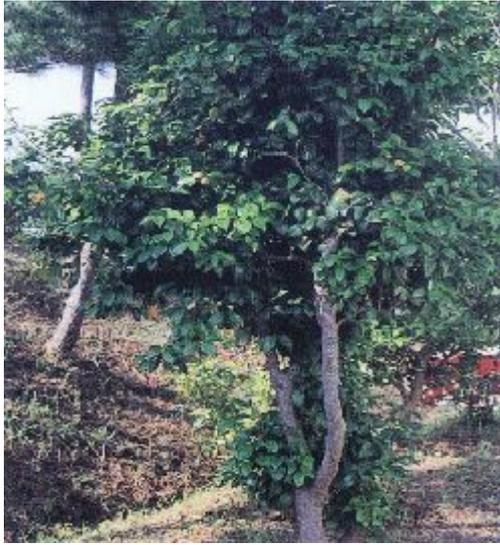
260 タイサンボク



モクレン科

花時期 5～6月

明治初期、1873年に渡来した。東京の上野公園には、当時植樹された木が現在も残っている。泰山木の名は、花や葉が大きいことを讃えられてつけられたもの。庭木や公園樹としてよく使われる。葉は長楕円形で、厚い革質。表面にはつやがあるが、裏面は毛が密生。長さ約15cmの集合果がつく。



264 ツバキ □

ツバキ科

花時期 3月

ツバキの園芸品種は多い。花の色が、ピンク・赤、花の形も大きな花びらや小さなものまで多くあるが、たくさんの品種のもとになっているのがヤブツバキです。種子から椿油をとります(伊豆大島の特産)。実の中をくりぬき、笛をつくって遊べます。

(近似種：サザンカ)

267 トベラ □

トベラ科

花時期 5～6月

海岸近くに生える常緑低木で、葉は逆卵形で光沢があり、縁は外側に少し巻いている。雌雄異株で花は白色。雄花・雌花にはそれぞれ退化した雌しべ・雄しべがある。果実は熟すと割れて赤い種子が現れる。12月31日の除夜に戸口の扉にこの枝を挟んで厄よけにした。

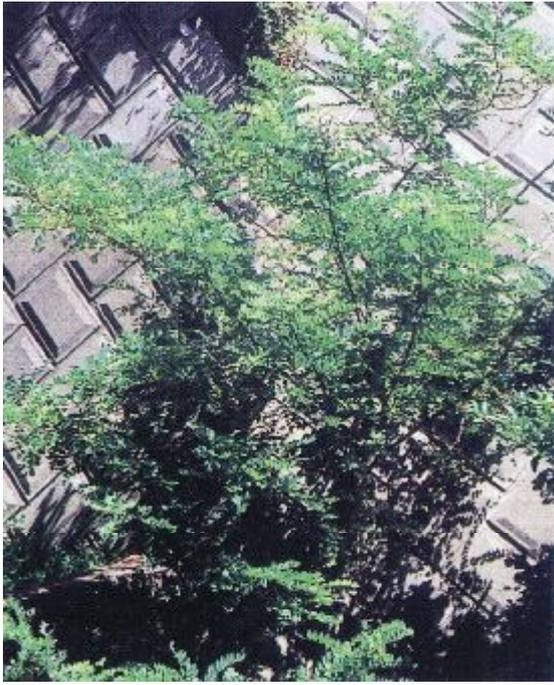


269 ニオイシュロラン □

ユリ科

以前の分類はドラセナ属になっていたのが一般的にはこれらの仲間をドラセナと通称しているが、現在はセンネンボク属(コルデリネ)の植物に分類させている。ニオイシュロランはその代表種で、ときには15mに達する常緑の高木である。

(近似種：センネンボク)



270 ニセアカシア

マメ科

花時期 5～6月

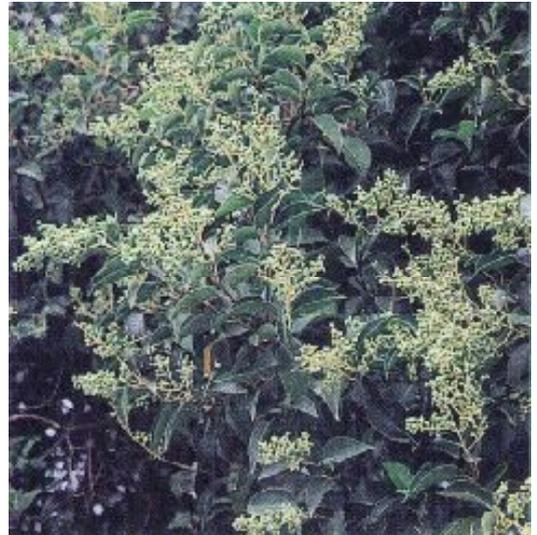
明治初期に渡来した。街路樹としての利用が多く、土質を選ばないので野生化しているものも多い。枝のつけ根にとげがあり、エンジュに似た葉をつけるため、この名がある。花は白く蝶形で芳香があり、天ぷらやサラダにして食べる。豆果は10月に褐色に熟し、4～7粒の種子が詰まる。

272 ネズミモチ

モクセイ科

花時期 6月

暖地に生える幹の高さ約2mの常緑低木。葉は対生で、あつくて、つやがあり、表面は濃緑色で、裏面は淡緑色。枝先に円錐状の花序をつけ、小さな花をたくさん咲かし、強い香りがあるので昆虫がよく集まる。果実はネズミのフンに似て黒紫で長円形。



273 ネムノキ

マメ科

花時期 6～7月

山野に生える。夜になると葉を閉じるので、この名がある。葉の粉末は抹香にし、材は各種木工品に使う。樹皮は灰褐色。葉は羽状複葉。ひとつの花のように見えるのは、10～20個の花が集まった花序で、夕方開花する。10～15個の種子が入った豆果がつく。



274 ハコネウツギ



スイカズラ科

花時期 5～6月

海岸近くに生える。幹の高さは3～5mの落葉低木で葉の表面にはつやがある。花は白色から黄色～紅色などに変化する。花の筒は急に太くなる。枝の中ほどの葉のわきに花がつく。

275 ハゼノキ

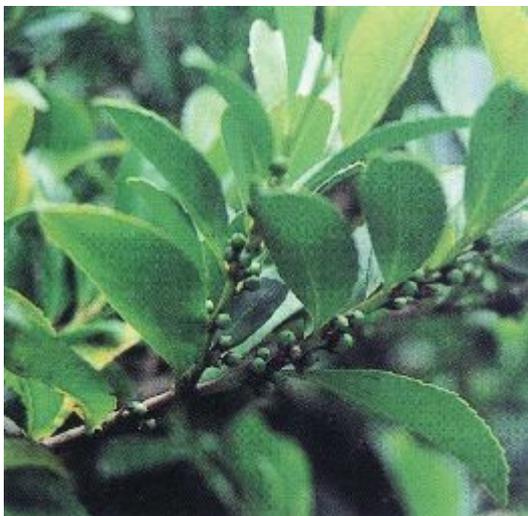
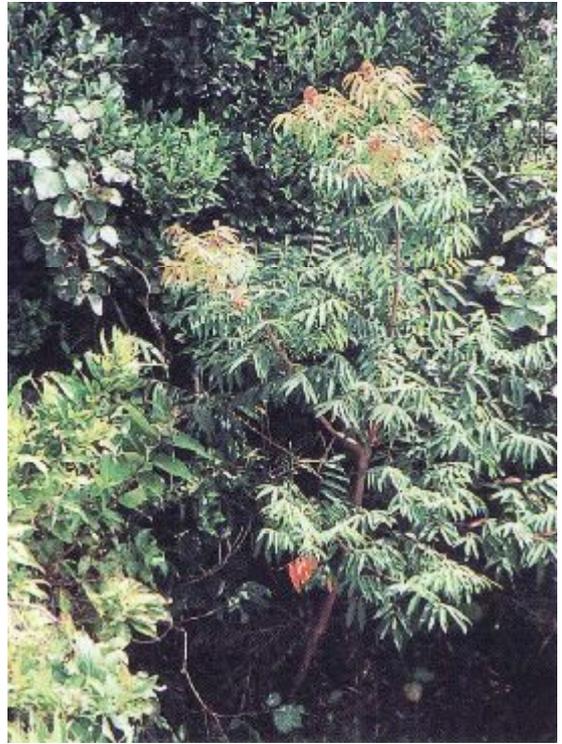


ウルシ科

花時期 5～6月

明るい林に生える落葉高木で、高さ10mになる。葉は枝先に集まってつき、葉の裏側は白く、長さ40cmほどの羽状複葉である。秋になると紅葉し(紅～えんじ色)美しい。雌雄異株で、花や実の穂は垂れ下がる。

(近似種：ヤマハゼ、ウルシノキ)



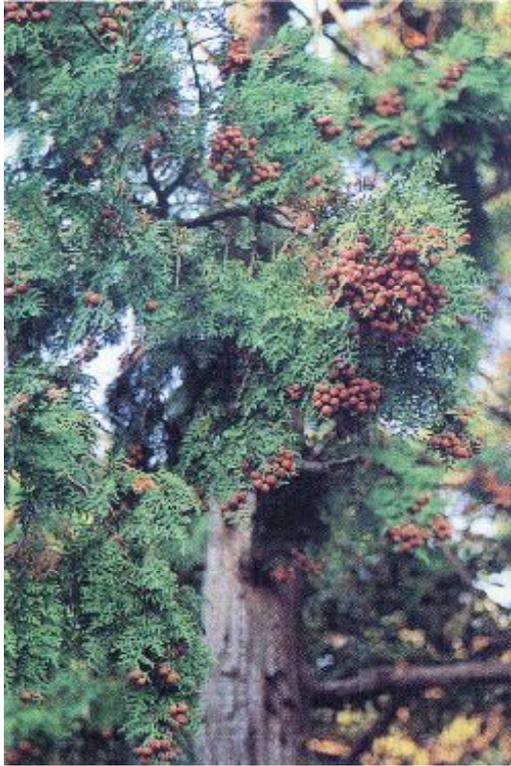
278 ヒサカキ



ツバキ科

花時期 6～9月

暖地の林の生える常緑低木で、ヒサカキに似ているが、葉のへりに鋸囲がなく、全体にすべすべしている。花は葉に径約1.5cmの白い5弁花が1～4個下向きに付く。実は10月に黒紫色に熟し、臭みがある。神社の神木として植えたり、枝葉を神前に供えたりする。



279 ヒノキ



ヒノキ科

花時期 4～5月

樹皮は赤褐色。繊維質で幅広く縦にさける。葉は鱗片状で鈍頭、側部の葉の先端は内曲し、小枝に密集する。裏面は葉の合わせ目のみ気孔群により Y 字状に白色を呈する。一見鈴のよな球形の毬果は、8～10個の木質化した鱗片に守られ、左右に翼を持った種子が2～5個存在する。

280 ヒマヤラスギ



マツ科

花時期 10～11月

日本へは明治時代初期にもたらされた。公園や神社の境内には樹齢100年を越す大木もある。枝は水平に伸び、樹冠は円錐形。針葉は長さ2.5～5cmで、束生する。雌花は円錐形。球果は長さ6～13cmで、翌秋に熟す。

別名ヒマラヤシーダー



281 ヒメユズリハ



トウダイグサ科

花時期 5～6月

暖地の山中に生える。庭や公園に植栽される。若葉に座を譲るように古い葉が落ちるので、代替わりの縁起ものとして正月飾りに使われる。若枝や葉柄は赤味を帯び、実は長さ15～20cmで、枝先に集まってつく。雌雄異株。



283 ビロウ



ヤシ科

花時期 4～5月

沖縄ではクバと呼ばれている。葉は手のひら状に広がり直径 1m もある。この葉で扇を創ったり、編んで笠にしたりする。幹の高さは 10m で葉は先がたれ、柄に鋭いトゲがある。

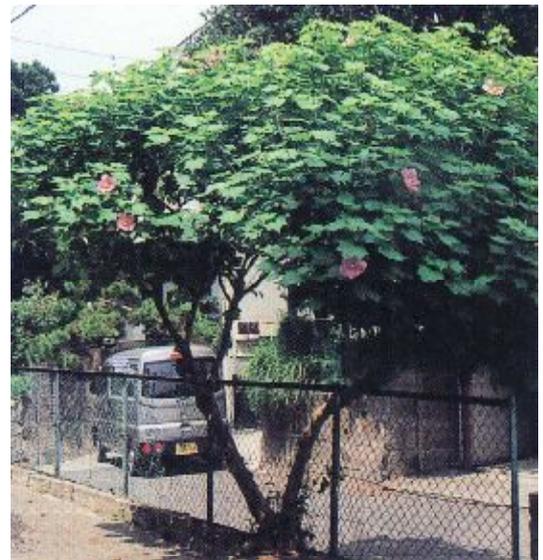
286 フヨウ



アオイ科

花時期 7～9月

神奈川県下では栽培種のみ、淡い紅色の花がつぎつぎと咲きますが、一つの花は一日でしぼんでしまいます。同じフヨウ属のハマボウは海岸に群生し黄色の花をつける。神奈川県下では三浦半島佐島が唯一の産地でハマユウとともに県指定の天然記念物になっている。スイフヨウは花が白から紅色に1日で変わる。

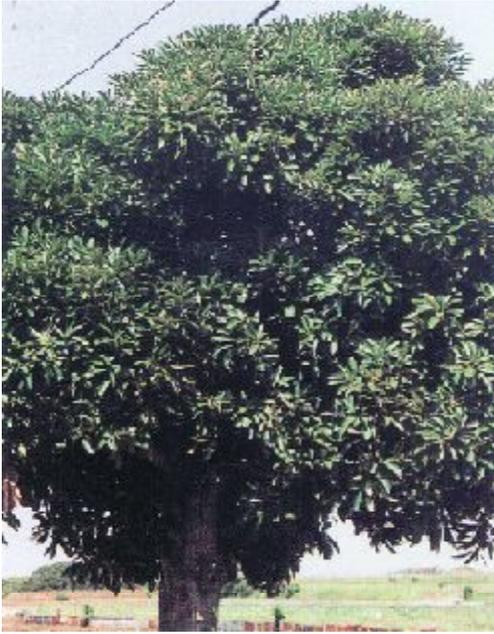


289 マサキ



ニシキギ科

沿岸地に生えている。生け垣としてよく利用され、園芸種も多数ある。葉は楕円形で、鈍い鋸葉があり、革質で光沢がある。葉のつけ根から葉序を出し、緑白色の小さな花を多数つける。割れて種子を見せる燈赤色の実は、熟すと淡紅紫色になる。



290 マテバシイ □

ブナ科

花時期 6月

海岸近くに生える。寺社の境内や公園などに植えられる。葉はよく茂る。長さ5～20cmで、裏側は銀色を帯びる。雌雄同株。花はクリのような匂いがする。実(どんぐり)は大形で長2～3cm。翌年の秋に熟し、煎るとおい食べられる。生でも食べられるが、あまりおいしくはない。

291 マルバシヤリンバイ □

バラ科

花時期 4～6月

海岸でよく見かける低木で木は低く枝は横に広がる。葉は丸く全縁が弱い鋸歯をまばらに持つ。白色の花弁は5枚で、花柄はやや横に開く。公害に強いことが分かり、街路樹や公園樹としてさかんに植えられることになってきた。



295 メタセコイヤ □

スギ科

三木博士によって化石が発見され、絶滅した種と思われていた。ところが、1945年に中国の四川省の奥地で生木が発見され世界的にニュースとなった。別名アケボノスキと呼ばれ、落葉の針葉樹で高さ35mほどになる。